

## 日本サッカー強化～J-LEAGUE に着目して～

大東文化大学 森ゼミB

安田光貴 森田大智 山田千菜美

末武健太 高橋瑠那 増田阿莉

### 1、 緒言

日本プロサッカーリーグ（英語: Japan Professional Football League）略称はJリーグ。主催団体は公益財団法人日本サッカー協会（JFA）、公益社団法人日本プロサッカーリーグ。1993年に開幕され今年で20年。プロ野球・大相撲以外のプロスポーツという事で多いに盛り上がり、サッカーを国民的スポーツとして定着させる事に成功した。

一方、サッカー日本代表の強化と言う面でも、1998年にFIFAワールドカップ初出場を果たし、いまやアジアの強豪国の一つとして君臨するようになった。世界のサッカー解説者は「Jリーグは世界で一番伸びがあるチーム」と評価している。だが他国のリーグと比較した際、歴史も浅く経営面にも大きな課題がある。ACL（アジアチャンピオンズリーグ）でも2008年のガンバ大阪を期に4年間、決勝戦に進めていない。果たしてJリーグは飛躍しているのか。世界と戦うには何が必要なのか。

### 2、 Jリーグの成り立ち

1993年 Jリーグ開幕

1992年 j2発足

1995年 勝ち点制を導入

1999年 PK戦を廃止、引き分け制を導入。

2004年 J1・J2入れ替え戦を導入。

2005年 J1を1ステージ制へ移行。

2014年 J3新設予定

2015年 J1を11年ぶりに2ステージ制へ移行予定。

### 3、 現在行っているJリーグの向上政策

Jリーグの選手育成において最も重要とされている言葉が「Players First!」すなわち「プレイヤーを第一に考える」である。

これは困難なチャレンジに直面した際に、つねに立ち返る合い言葉である。

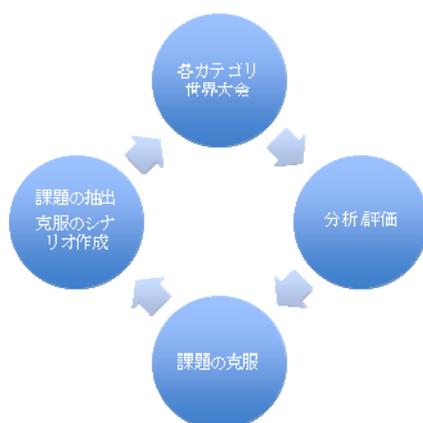
Jリーグの選手育成の政策は大きく分けて2つある。

(1)、国内の「勝った」「負けた」ではなく、常に世界をスタンダードに。

JFA 技術委員会では、10年ほど前から「世界を基準とした強化策の推進」を掲げている。世界という基準を明確に持ち、その中で闘っていくために必要なことは何か、という観点を常に失わずに、

日々の強化育成を進めていくことが不可欠であると考えている。そして、世界トップ 10（女子はトップ 5）を目指している。

この目標のアプローチの一環として以前から、日本が出ていようがいまいが各年代の世界大会を視察し、テクニカルレポートを作成するようにしている。それは、左下の図のサイクルを実際に推進させる非常に重要な活動である。このテクニカルレポートから課題を抽出し、その内容にしたがって課題のシナリオを作成、そして各年代の日本代表チーム・ユース育成（トレセン）・指導者養成といったところで必要な措置をとり、課題の克服を試み、そして再び各カテゴリーの世界大会にチャレンジするというサイクルである。すなわち、課題を見出し、それを解決するためのシナリオを作成し、それを必要なところに伝えていき実施することが重要である。さらに、その内容を日本サッカー界全体に頒布して、今後の強化育成に関する情報や方向性の共有化をはかり、日本全体のレベルアップを図っていくことを目指す。それには、テクニカルスタディの内容をレポートにまとめ、それ自体を発信することだけでなく、それを短期的なものは代表チームへ、中期的なものはユース育成、そして指導者養成へ、長期的なものはグラスルーツへと、さまざまな技術委員会の施策に反映させることが有効でとしている。



(図1) 世界をスタンダードとした強化策の推進

(2) 三位一体：代表強化、ユース育成、指導者養成+普及 の総合的アプローチ

「三位一体の強化策」とは、

- ・代表強化
- ・ユース（若年層）育成
- ・導者養成

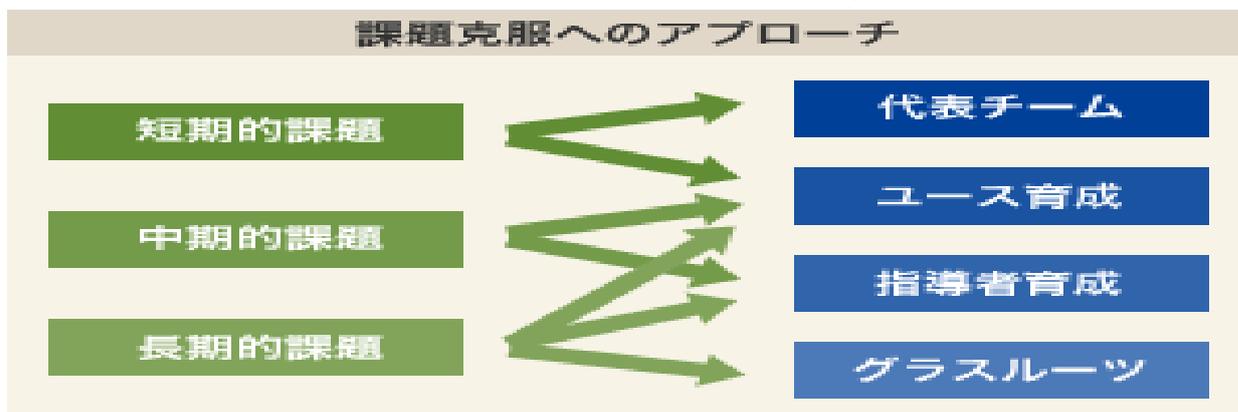
の 3 つの部門が同じ知識・情報を持ち、より密接な関係を保ちながら、選手の強化育成と日本サッカーのレベルアップを図るというシステムである。

代表の強化は、代表となった選手を集めての短期の強化のみでなく、日々の所属チームでのトレーニングによってなされるもの、また、1 人の選手は大人になったら突然うまく強くなるものではなく、ユース年代からの育成の積み重ねによって強化されていくものである。

日本では、ナショナルトレセンを頂点とするトレセン制度によって、日本全体のユース育成の枠

組を整え、さらにエリートプログラム、JFA アカデミー等によってレベルアップを図っている。

そして、そういった選手たちを日々指導するのは指導者であり、質の高い選手の育成は、指導者による日々の指導のレベルが高くないとあり得ない。つまりは良いユース育成をしようと思えば、指導者の質の向上が不可欠であるということである。そのために、より多くの、より質の高い指導者の養成を目指し、コースの増設、再教育の充実に取り組んでいる。



(図2) 日本サッカーの課題

#### 4、 他国リーグ特徴

##### 4.1 育成～イングランド～

最低、U9～U12 は週 3 時間、U12～U16 は週 5 時間、U17/U18 は週 12 時間とトレーニングを確保しなければならない。

日本→規定なし

##### 4.2 リーグシステム～メキシコ～

各チームはリーグ戦 17 試合で、延べ 20 歳 11 ヶ月以下の選手を 765 分以上（＝総試合時間の 50% に相当）起用しなければならない。これを満たさないと、リーグ戦終了時に勝ち点 3 を剥奪される。

日本→規定なし

##### 4.3 外国人選手枠～イングランド～

外国人のスタメン出場を 5 人に制限する「6+5 制度」

日本→「3+1（外国人+アジア人）」

#### 5、 提言

- (1) 他リーグシステムを模倣する。
- (2) 選手だけでなく、スタッフにも外国人枠を設ける。
- (3) スカウティングの視野をより一層広くする。
- (4) Jリーグクラブに海外遠征を推進する。

6、 資料・文献

- 日本サッカー協会HP ([https://www.jfa.or.jp/training/players\\_first/index.html](https://www.jfa.or.jp/training/players_first/index.html))
- Jリーグ公式サイト  
(<http://www.j-league.or.jp/>)
- Soccer king
- (<http://www.soccer-king.jp>)
- Football channel  
(<http://www.footballchannel.jp>)
- 「Jクラブ強化策」田中直希 (2013/6/5)
- 「ヨーロッパ・サッカー育成最前線—ヨーロッパ・サッカーの育成コンセプト最新 15 条」  
(2011/4/21)